

〈山岳四団体声明〉 政府の緊急事態宣言全面解除を受けて 山岳スポーツ愛好者の皆様へ

令和2年5月25日

本日（令和2年5月25日）、政府は新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の全面解除を発表しました。国民、そして山岳スポーツ愛好者にとっては待ちに待った宣言解除です。山岳スポーツ自粛をお願いしてまいりました山岳四団体として、自粛要請の重要性をご理解いただき、ご協力くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。

自粛解除後の山岳スポーツ再開にむけて基本的なガイドライン（指針）を下記に示しました。より詳細なガイドラインにつきましては自治体、所属の山岳団体、山岳会等のガイドラインを参考にしてください。ガイドライン遵守は、山岳救助関係者、医療関係者、山域圏内の住民、そして山岳スポーツ仲間への相互感染を防ぎ、予想される第二次感染症拡大防止に貢献します。

全面解除を受けても新型コロナウイルス感染の危機は常に存在します。引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

記

「自粛」要請解除後の登山・スポーツクライミング活動ガイドライン

感染させない、感染しないために

- 1 近距離（100km 圏内程度）のできるだけ都道府県を跨がない日帰り登山から始めましょう。
- 2 体調不良（平熱を超える発熱、悪寒、倦怠感、息苦しさ、咳等）での登山は止めましょう。入山後にコロナ感染症発症すると命に関わり、救助隊、収容先地元医療機関に多大の迷惑を及ぼします。
- 3 登山は少人数で行いましょう（パーティーは、当面5名以内で）
- 4 自粛期間中、季節や地震による山容の変化、登山道の荒廃など思わぬ危険が潜んでいます。十分な登山ルートの下調べと地図、コンパスの持参、登山届けは必ず提出し、家族にも残しましょう。
- 5 登山中でもマスクを着用しましょう。マスク着用時は、熱中症及び脱水には十分留意し、こまめに水分摂取を心がけましょう。
- 6 登山、クライミングジムでのソーシャルデスタンスを守りましょう。一般的には2メートル前後ですが、登山中の場合はさらに距離が必要とされています。また、クライミングジムでは建屋構造、利用人数等で制限がありますので、ジムの指針に従って行動してください。啞えロープ、滑り止めなどもジムの方針に従ってください。
- 7 登山山域内での買い物や、下山後の呑み会等も地元住民への感染防止の観点から控えてください。食材、飲料、緊急食などは出発前に揃えておきましょう。
- 8 自粛中に衰えた筋力、体幹を鍛えましょう。

今回の世界的新型コロナウイルス（COVID-19）の蔓延により、社会構造、経済が大きく変化し、

それに対応する新しい生活様式の確立が必要になりました。登山もスポーツクライミングも新しい視点からの活動指針が必要です。

山岳四団体でも皆様方のご協力得ながら、安心して安全な山岳スポーツの再興を目指し努力してまいります。

自粛期間中の皆様のご協力に重ねて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

山岳四団体

公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会
日本勤労者山岳連盟
公益社団法人 日本山岳会
公益社団法人 日本山岳ガイド協会

※山岳四団体は、令和2年4月20日付けで「山岳スポーツ愛好者の皆様へ」との声明を発表し、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事態の収束を見るまでの山岳スポーツ行為を厳に自粛するよう愛好者に要請していた。

北海道山岳連盟令和2年度総会・新執行体制

令和2年度総会を終えて

北海道山岳連盟会長 小野 倫夫

令和2年度北海道山岳連盟総会は、5月25日の書面議決締め切りをもって終了しました。

前代未聞、きわめて変則的なスタイルでの総会でしたが、道岳連規約第21条により5月31日までが期限となっております。

議決は、議案1号から議案12号について、加盟44団体中37団体の承認、7団体の欠席（回答なし）をもって承認されたと判断しました。

これはまた、内閣府から出された新型コロナウイルス感染に関わる公的会議についての通達に拠っています。

もとより通常の総会であれば議案、提案について、闊達な論議、提言をいただけるのですが、それは今回叶わなかったものの、会員各位のご理解、ご高配の賜物と御礼申し上げます。

今後の登山活動については山岳四団体により出された自粛と解除についてのガイドラインを遵守し、各団体においても適切な対応をお願いします。

令和2年度の執行体制ですが、会長以下の構成は次ページのとおりです。新体制は、新型コロナウイルス感染症という全く予期せぬ事態に、これからどんな状況になるかわかりませんが、加盟団体、会員のご支援、ご尽力をよろしくお願い申し上げます。

会長 小野 倫夫（えぞ山道会 再） 副会長 齋藤 邦明（十勝山岳連盟 再） 副会長 石井 昭彦（旭川山岳会 再） 副会長 下山シゲ子（釧路山岳連盟 再） 監事 宮西 博（美唄山岳会 再） 監事 秋元 篤男（札幌山岳連盟 新）

理事長兼指導委員長 明田 通世（札幌山岳連盟 再） 副理事長 田中 清子（岩見沢山岳連盟 再） 総務委員長 澤田 時人（登別山岳会 再） 遭難対策委員長兼務 齋藤 邦明（十勝山岳連盟 再） 普及委員長 横山 温（室蘭山岳連盟 再） 競技委員長 山納 秀俊（北海道フリークライミング協会 再） 自然保護委

員長 増子 麗子 (クーラカンリ 再) 海外委員長兼務 下山シゲ子(釧路山岳連盟 再) ジュニア委員長 高見 直広(富良野山岳会 再) 常任理事 上野 敏彦 (えぞ山道会 再) 常任理事 武田 渉 (北海道トレイルランニングクラブ 再) 常任理事 一安 敏文 (北海道フリークライミング協会 再) 常任理事 春山 孝義 (登攀道場美唄 再) 常任理事 奈良崎 功 (美唄山岳会 再) 常任理事 益田 敏彦 札幌山岳連盟 再) 事務局 局長 玉木とし子 (札幌山岳連盟 新) 事務局 太田 和子 (札幌山岳連盟 再) 事務局 横辻 幸 (札幌山岳連盟 新) 会長推薦理事 内藤美佐雄 (美瑛山岳会) 会長推薦理事 事務局兼務 太田 和子 会長推薦理事 池田 邦夫 (えぞ山道会) 任期は二年間

令和2年度の道岳連の運営に関する事項として 1. 加盟団体との接点どう持つか 2. 財政的な逼迫が進んでいる 3. リーフレットの作成・配布 4. 総会 5月 理事会 4月 10月 5. 道岳連実態調査の実施 6. 道岳連の法人化 事業運営では「安全登山シンポジウム」の今年度休止、各種議題においては、日高登山研修所の今年度における廃止、個人会員制度細則の改定などが提案された。

また、加盟団体の深川岳悠会と網走山岳会からの退会届け、登別山岳会の新規加入申請 (室蘭山岳連盟から退会し単独加盟) が提出され、それぞれ承認された。

行事・各委員会事業報告

令和元年度事業

令和元年度氷壁技術研修会 1/12-13 層雲峡「尾滝」他

本年度の氷壁技術研修会は、例年行っていた「銀河の滝」から場所を変え、初日は大函手前の覆道上の「尾滝」で行いました。今回、参加者 17 名 (北見山岳会 6、斜里山岳会 2、札幌ロビンア山岳会 1、千歳ヤマセミ倶楽部 1、札幌山の会 1、千歳山岳会 1、函館マウンテンクラブ 1、クーラカンリ 1、個人会員 3)、講師・スタッフ 4 名の総勢 21 で実施しました。

「尾滝」でトップロープを張り、参加者含め交代でビレーを行い登りましたが、初心者の方はやはりアイゼンに立つことが難しく、体を安定させてアックスを振ることが難しかった様ですが、周りで観ている参加者からアドバイスを受け、徐々に登れるようになっていました。

申込書に経験を書いて貰っていましたが「リードできる」と書いたのは 1 名のみでしたが、実は遠慮して「経験あり」と書いていたことが懇親会で判明した方が複数名おられました。

参加者 16 名 (初日) で「尾滝」だけでは申し訳ないので、「NAKA滝」を偵察に行きましたが空いてなかったので「パラグフォール」を偵察に、誰も居なかったので直ぐに下段にトップロープをセットしました。「尾滝」を登った方から順に「パラグフォール」に挑戦して頂きました。

技術講習の中では、現在はリーシュレス、アイゼン



錦糸の滝

はモノポイントが主流、手袋の種類やスクリーハーケンを着脱方法等の説明とV字スレッドの作り方の実技を行いました。

宿に入り温泉で体を温めて、夕食前に机上講習ということで、道内の氷瀑情報として石井が登った氷瀑の写真を観て頂きました。また、明日の「錦糸の滝」の写真を見ながら50mロープ持参者は左側から2ピッチで登る班、60mロープ持参者は中央を一気に登る班に分けるという説明をし、登る自信がないという方はおりませんでしたので、その場は終わりました。その後、夕食を摂ってから懇親会を始め、自己紹介後、山話で懇親を深めました。



「尾滝」登攀

翌日の気温は-15℃でしたが風も余り無く晴れの良い天気でした。「錦糸の滝」のアプローチは新たなルートがあるということで、ロビニア山岳会のK藤講師に案内してもらいました。石狩川の渡渉も安定した結氷で、帰りのコンクリート壁の登り返しも無く、良いルートでした。

「錦糸の滝」では、初心者、セカンドのビレーが出来ない方はトップロープで登ってもらうことにしました。落氷の危険もあるので中央を登るルートは止め、向かって右側に旭川山岳会のM岸講師にトップロープを張ってもらい登りました。

左側は石井が登り40mでピッチを切り、北見のM月氏を上げてから更にF1の終了地点まで登りました。M月氏の後続は全て60mロープだということで、後続は一気に上まで登ってもらうことにしました。一人ずつセカンドを確保してもらい、ロープが上に2本溜まったら登った順に懸垂下降して降りてもらいました。北見山岳会6名、斜里山岳会1名の方々でしたが、アイスの経験1~2シーズン目という方も居られましたが、全員テンションを掛ける事も無く、一気に上まで登って来られたので、大変感心しました。中央下段では、M岸講師にセカンドのビレーを講習してもらい、皆さん良い研修になったと思います。

海外登山委員長 下山シゲ子 講師 旭川山岳会 石井 昭彦ほか

参加者感想

函館マウンテンクラブ 中村

今回、私はアイスクライミングの経験が全く無い状態で参加させて頂きましたが、2日間共に独特の緊張感を感じながらも、とても楽しい時間を過ごすことが出来たと思います。特に凍った「錦糸の滝」を間近で見上げた時と、実際に登った時の感動は忘れられません。また、今回の研修は自分にとって、今後に繋がるとても貴重な経験になったと思います。私は今回の参加をスタートに、アイスクライミングの技術を少しずつ習得して行きたいと考えております。将来的には、地元道南の氷壁で指導・教育できるレベルにまで深めて行けたらと思いますが、そこに至るにはまだまだ数多くの経験と勉強が必要です。そのためにも今回のような研修を通じて、一步一步確実に成長して行きたいと思います。最後に、このような貴重な機会を作って頂いた道岳連ならびに、指導委員会の皆様に感謝の意をお伝えしたいと思います。有り難う御座いました。

参加者感想

北見山岳会 高橋

昨年に続き、2回目の参加でした。2日間の講習会、甘酒もごちそうになり、講師の皆さんありがとうございました。今年は気温も暖かく、天気も良く助かりました。初日の「パラグフォール」は初めてだったので、ワンピッチでも登れて面白かったです。ちょっとハング気味のところもあり、

他の人の登り上がり方を参考にし、いろいろ考えながら登りましたが、足の置き方がなかなか安定せず、課題です。石井さんの登りを楽しみにしていたので、無駄のないスピーディーな動きに見とれました。

2日目の「錦糸の滝」も初めてで、2ピッチまででしたが60m近く一気に登り、長い距離を登るにはやはり腕より足の使い方が大事と思いました。またセカンドビレイの練習、懸垂下降もできたこと良かったです。2日目は1回しか登れなかったのが残念。まだトップロープで登るだけですが、フリークライミングの動きを参考にとも教えてもらいましたので、ロープワークを含め、安定した動きをできるよう練習していきたいと思います。

山岳スキー(氷雪)技術研修会 2/15-16 三段山他

昨年度は申込みが少なく開催できなかった山岳スキー氷雪技術研修会でしたが、今回はスタッフを加え20名で開催することができました。そのうち4名がこの冬まで行われた山岳コーチ1(指導員)養成を受講されていたみなさんで、意識の高さ、講習会への期待が感じられました。

第1日目、白銀荘駐車場で集合。みなさん遠方からということで時間に余裕を持って移動してきたとはいえ1時間前にはほとんど集合している状態。開会式前に時間もできたので従来主流の静的ストレッチに変わり動的ストレッチについてサンプルを紹介してみました。

この日は朝から三段山で基本的な部分を実践するために二班編成で入山。アバランチトランシーバ(雪崩ビーコン)のチェック、シール歩行やターンなどを学びながら二段目へ。雪の降る中、一班10名弱を収容できる吊り下げ式のテントでビバーク体験しながら昼食。午後からは雪崩事故防止のためのピットテストとアイゼンとピッケル歩行の班を入れ替えながら実践。ピットテストには十分な雪でしたがアイゼンとピッケルには傾斜、雪質とも向かず体験的なものになったのは残念でした。白銀荘に戻るための滑走も今シーズンは積雪が少なくブッシュがうるさい状態でした。

白銀荘の屋内講義では、アイゼンとピッケルの基礎、雪崩対策の基礎、雪崩事故発生時の行動手順を映像で確認。山岳スキー滑走を映像でイメージするなどして翌日の実践に活かすことができるようにしました。この日、白銀荘は満室で多くのバックカントリー愛好家で賑やかでしたが、われわれも夕食後に自己紹介などで楽しい時間を過ごしました。

第二日目は富良野岳ジャイアント尾根で山岳スキーを実践。早朝からの行動開始と車両乗り合わせにより翁公園に駐車して入山することができ、ヌッカクシ富良野川の渡渉も容易で幸先の良いスタートです。尾根を回り込んでベベルイ川を標高1110m付近で渡ってジャイアント尾根に取付き高度を稼ぎます。樹林帯を抜けると昨日登った三段山、黄色い噴気に霞む十勝岳、遠く旭岳方面まで展望が広がっていました。1500mまで登って滑降に切り替えます。他のパーティーはさらに登ってベベルイ川上流部にドロップしていましたが、こちらは大人数であり初心者も多いことから雪崩事故発生時は対応が難しいことも憂慮し尾根を滑ることに。昨日はできなかった斜滑降など硬雪斜面の滑走などを行いながら帰路につきました。こちらも積雪が少なく木々がうるさい状態でしたし、多くのパーティー登ってくるのとすれ違いになり、少しずつ刻みながらの下山となりました。

記録的に雪の少ない中での開催となりましたが、北海道の冬山の基本的な技術である山岳スキーとアイゼン、ピッケルでの行動について実践的に学んでいただけたものと思います。また、二日目の下山時に滑降しすぎて再合流に時間のかかったメンバーが出てしまったことが今回の研修会の最大の反省点となりましたが、このことについて各人考えていただけたところが大きいと思います。今回の研修会で感じていただけたことを今後の山行や指導に活かしてくださることを期待しています。

担当：滝澤 大徳

参加者所属 登別山岳会 7名 新得山岳会 2名 富良野山岳会 1名 登攀道場美唄 1名
斜里山岳会 1名 個人会員 1名
スタッフ 滝澤 藤木(晴) 藤木(たか) 相馬 山崎 荒堀 池内



三段山でアイゼン・ピッケルワーク



屋内研修

参加者感想

門馬

2月15日(土) 1日目 三段山 (アイゼン・ピッケル氷雪技術訓練)

天気も良く、寒さもそれほどではない。周りを見ると外国人の多いこと。おとし参加した時はほとんど日本人だった印象なので、ここにもニセコ同様外国人の波が押し寄せてきている様子でした。10時30分出発に合わせて、準備、装備点検し、体操は動的ストレッチを滝澤指導員より伝授。各会で取り入れ必至ですね。

10時30分白銀荘駐車場を出発し、1時間20分くらいで二段目1300m付近に到着。12時になる頃なのでインディアンツェルトをA班、B班それぞれ張り昼食&休憩をとりました。12時40分頃からそれぞれの班に分かれて弱層テストとアイゼン・ピッケルワークの実技講習を受けました。まずは

アイゼンを装着。弱層テストのECTとコンプレッションテストを行いました。ECTはシャベルとスノーソーで奥行き30cm幅90cm高さ1m20cmほどのブロックを作りシャベルを上部にあてがい叩く方法。これを行った後、個々で高さ1mの30cm角柱を作り、シャベルを上部にあてがい叩く方法で弱層があるかどうかテストを行った。

13時30分頃から、アイゼン・ピッケルワークの実技講習。アイゼン装着時の歩行について、足幅はどうか。ソフトボール1個分空いているか？上がり時には逆ハの字でフラットフットィングで歩いているか？下りもしかり。踵から着地せずフラットフットィングになっているか？ピッケルの持ち方はどうか。ピックは山側に向けているか？安全に方向転換できる持ち方をしているか？斜面を往復し、確かめながら歩行訓練をしました。足幅は注意していないとだんだん狭まってきて、ズボンの裾を引っ掛けそうになるので注意。

14時40分頃下山開始。雪の深さもちょうどいい滑りやすい雪でした。皆さん滑走はお手の物で、スイスイと下りて行きました。15時過ぎ白銀荘駐車場到着、実技講習修了。

16時机上講習。アイゼン・ピッケルワーク、雪崩対策。実技講習を思い出しながら、アイゼン・ピッケルの各部名称や種類。入山前後の扱い方、山での装着の方法、歩き方のおさらい等を学んだ。雪崩対策では、雪崩地形での通過時の注意点や、弱層テストの方法、雪崩に巻き込まれた時のアプローチ方法、レスキュー方法等を学んだ。

18時ころ、夕食&交流会。恒例の自己紹介タイムもありつつ、大いに盛り上がっていました。

2月16日(日)2日目 富良野岳ジャイアント
尾根スキー滑走

7時10分集合 駐車場へ移動

7時30分 登行開始

カリカリで滑ってしまう箇所があり注意深く登行した。すれ違う人はほぼ外国人でした。

1480m付近で下山開始。腹ごしらえして滑走！右へ行くと落ちてしまうので注意。今回の自分の課題は「後傾にならずにスキーを揃えて滑る」でしたが、7割方出来ていたような・・・。出来たことにしておこう！最後の狭い林間もおととしよりは上出来でした。12時05分登り口到着。

最後に、道岳連の研修は参加させてもらうたびに勉強になりました。他の会の方とも交流が持てることで、とても有意義な2日間でした。来年も是非参加したいと思いました。

指導員の方がた、お忙しい中準備等ありがとうございました。また、いつも美味しいご飯を出していただきありがとうございました。



富良野岳ジャイアント尾根

冬山講習会 Part1 2/8-9 羊蹄山・京極山荘

◎日 時 2020年2月8日(土)～9日(日)

◎宿泊場所 札幌山の会 京極山荘

◎冬山講習会 Part1(基本編)参加者

一般参加者6名 山岳会1名 個人会員8名 スタッフ6名 合計21名

スキー班 11名 スノーシュー班 10名

◎参加スタッフ 秋元篤男副会長 佐藤 真 宮寺 毅 横山 温 橋本一郎 横山泰子

◎講習会時系列内容

8日 9時30分 京極温泉駐車場に集合して、晴天のなか京極山荘特設駐車場へ向かう。遅れてくる車もあったが10時30分から開講式、座学研修に入る。

冬山のリスクと対策、スノーシューの特性、雪洞とテント、地図と磁石の使い方、雪崩トランシーバの使い方等の机上での学習をする。



イグルー製作

12時30分から山荘前に出て時折小雪が降る中での実技講習を実施した。スタッフ2名が前日から製作していたイグルーを完成させ、雪崩トランシーバ、一人雪洞、ツェルト実技講習を実施する。15時30分から大型イグルーで焼き肉を楽しみ山荘に入り夕食、懇親会を進めて22時就寝。

9日 朝食6時 出発7時30分 各班雪崩トランシーバテストを行い北コブコース林道から各尾根を目指し別行動を取る。

《スキー班報告》

8時15分北コブコース尾根に取付き、8時45分急登の始まる地点でショベルコンプレッションテストを実施。2層の弱層部分があるが問題なしと判断し登行を開始する。ひざ下までのラッセルに時間を費やし、11時45分コンタ1065mに到着、12時滑降に入る。天気も良くそれぞれにパウダーを楽しみ13時20分山荘に全員揃い閉講式を行い、普及委員会恒例の一本締めで解散する。

北見枝幸、旭川、函館、札幌と遠路から講習会に参加して戴きスタッフ一同感謝しています。今回は、中国国籍の参加者、スノーボードでの参加と有意義な時間を共有できました。そして、札幌山の会の協力本当にありがとうございました。

普及委員長 横山 温



コンタ 1065m から滑降開始

《スノーシュー班報告》

講習会2日目、スノーシュー班は羊蹄山の中腹まで往復実技講習。幸い昨夜からの降雪で、ふかふかのパウダースノーが20cm、天候も時々日差しのある絶好の登山日和となる。また、最低気温がマイナス19℃の低温ながら無風状態、気持ちの良い歩行ができそう。京極山荘の出発口でマップリーディング、向かう方向の度数を定める。昨日学んだ順番で、雪崩トランシーバのスイッチを入れる。行動は一人50歩を基本に、先頭ラッセル交替をルールとする。待望の山に向かう。山荘から100mほど高度を稼いだ後、林道(530m)でスキー班と別れて尾根に行く。スキー班は滑りに良い尾根、スノーシュー班は地形が面白く、スキーに向かない尾根だ。

深雪ラッセルの歩き方、斜面の選択、先頭になるといろいろ考えることが多い。深雪なので先頭は大変だが、短い距離の繰り返しなので、メンバーの歩みは順調。おまけに、降りたての雪や雪に覆われた樹木、静寂の森の景色が快調な歩みを支えてくれる。10人編成なので交替が早く、目標とした850m付近に2時間余りで到達できた。この辺りの地形は面白い。尾根登り口は幅広い普通の尾根だが、800mで急に狭くなり、その少し上で尾根は沢に吸収されてしまう。(今回、最終点は観ていない)



京極山荘出発

細尾根は休憩に向いていない、恐ろしいということで、予定より30分早く下山を開始する。そして10分ほど降りた後で昼食、大休止、その後は上がりトレースに沿って各自下ることになった。

トレース跡は歩きにくいので、メンバーは自分なりのルートを描く、楽しそうに下る。ますます快調な歩

み、上がり2時間、下り1時間30分、休憩30分、スノーシュー班は早めの山荘到着となった。

(担当：橋本、秋元)

参加者感想

青野

先日は、羊蹄山登山講習会に参加させていただきありがとうございました。夫婦で冬山登山を始めて3年がたち山行も幅広くなり独学でのリスク管理に不安を覚え、しっかりと山について勉強しなければと思い今回の講習会に参加させていただきました。

初日の秀ちゃん人形を埋めての雪崩コンパニオンレスキューは、実際に埋没者を掘り出しているような臨場感があり、大変勉強になりました。また、イグルーの製作にあたっては、雪の切り出し積み上げ方などとても参考になりました。

イグルーの中での焼肉、ちょっと早めの時間から始まった懇親会、イカのアヒージョ、ヒラメの昆布締め、蕨の炒め物などをおいしくいただきました。調理してくださった方、差し入れを持ってきてくれた方、本当にありがとうございました。

2日目は、スキー班、スノーシュー班に分かれて羊蹄山北こぶに向けての登山研修でした。雪崩トランシーバのグループチェック、コンパスを使用したルートファインディングなど、講習で教えていただいたことはしっかり実行できるよう反復し学んでいきたいと思います。

初参加の私たちを暖かく迎えてくれた参加者の方々、山のイロハの入口をご教示いただいたスタッフの方々、本当にありがとうございました。最後にスタッフの方の厳冬期トムラ挑戦、連敗脱出を祈念しております。

冬山講習会 Part2 2/22-23 室蘭岳・室蘭絵鞆半島海岸

◎日 時 2020年2月22日(土)～23日(日)

◎宿泊場所 室蘭ユースホステル

◎参加者

一般参加者2名 山岳会2名 個人会員3名 スタッフ4名 合計11名 (男6 女5)

スキー班 11名 スノーシュー班10名

◎参加スタッフ 横山 温 橋本一郎 横山泰子

◎行動記録

2月22日(土)室蘭岳(冬コース)

《スキー班報告》

10時に室蘭市ダンパラ公園駐車場に集合し、開会式後に白鳥ヒュッテに向けて出発。10時30分に到着。

あまり天気はよくないが、スキー班が先に室蘭岳頂上に向け登っていくと、やはりガスが段々濃くなりトレースを頼りに2回程休んで頂上に11時55分に着く。ほとんど視界の効かない頂上は、風が強くて少し下がった所でスノーシュー班を待つことにした。20分ほどしてスノーシュー班が登ってきて合流。ここで全員記念写真を撮り先に滑り出すが、視界が悪いので慎重に下り、白鳥ヒュッテに無事12時40分に到着する。白鳥ヒュッテの中で昼食をとり、スノーシュー班が下って来たら、ヒュッテから20分程で行ける「簾の滝」まで全員で散策した後、駐車場に戻って車で「むろらん温泉ゆらら」に寄り入浴タイム。冷えた体には最高でした。(普及委員会 細木 輝雄 記)

《スノーシュー班報告》

2月22日(土)

10:00 室蘭ダンパラ公園駐車場、曇り、風が強く、横から粉雪が吹く。室蘭の天気予報最高気温5℃、最低気温-2℃、曇り午後雨気分は春を見込んだが、風が強くて寒い。

スノーシューで硬い雪をゆっくり進む。山域に入ると風が弱まる。標高700m上は濃霧で、5~10m先が見えない。吹きさらしの風に襲われる。先行者の微かなトレースを見極めつつ、ほぼ360度(北)へ体制を低くして歩を進める。霧氷が木々を飾り、幻想的で美しい景観に感じ入った。山域は我らのみ。高さ800m上の赤い標識に安心した。

鐘の山頂は霧の中。風に吹かれて直ぐに退散した。少し降りたところで山スキーのkohataさん夫妻に遭遇した。元気なカップルだ。我々は登り下りが徒歩でいささか疲れた。スキーよりも足腰の鍛錬になる。



白鳥ヒュッテ前を出発



簾(すだれ)の滝

高さ650mで大休憩、登り2時間、下り1時間30分。白鳥ヒュッテから冬季限定の「簾の滝」氷瀑を見学。白鳥ヒュッテから公園駐車場に着く頃にはみぞれ・雨になった。雨に濡れ、風に吹かれて体が冷えた。その後の行動は止めにし、室蘭温泉「ゆらら」で湯に浸かり終了した。陽のあるうちに室蘭ユースホテルに投宿。小学生の集団と同宿になった。座学は、山の食事・食料、熱中症、低体温症。

室蘭名物・焼き鳥と焼酎・ビールに、腹も頭も満たされて22時に就眠した。

2月23日(日)

8:10 イタンキ浜出発 強風、体は煽られる。浜からユニ山へ、突風で体が持って行かれる。風速20m/s(気象台報道)、ユニ山征服。10:30で強風歩行訓練を終了した。後は車で周遊。絵鞆半島は車が風で揺れ恐怖を感じた。市街地は風が弱くて穏やかな天候だった。市内、天勝で天井を食い満足した。12:30道の駅「みたら室蘭」で解散。強風20m/sを行動し、初めての貴重な体験を得、終了した。チーフリーダーには、飲食共々お世話になった。(橋本 一郎)

参加者感想

“実戦”強風体験 山本

2月22日~23日 室蘭にて冬山講習会 Part2に参加しました。低気圧の影響で天候には恵まれな日程でしたが、思いがけず大変貴重な体験でした。

1日目… 室蘭岳山頂を目指して出発。樹林帯は比較的穏やかに進みましたが、標高が上がるにつれ風は増しガスはかかり、目印となる赤旗は見えません。前後の参加者を確認しながら進みます。この山を熟知しているスタッフが先導してくれますから不安はありませんが、これが冬山か!! 911m侮るなかれを実感です。もしこれが人里離れた山奥だったら恐ろしい事でしょう。

2日目… 強風収まらない中、イタンキ浜出発。前日よりさらに強い風に煽られながらのトレッキングです。この状況での歩行がいかに体力を消耗するかを実感しました。

予定の行程を半分で切り上げ、地球岬・測量山等々は車での移動となりましたが、眺める海は迫力があり、厳しくも美しい姿に感動です。

山中にて急に悪天候に見舞われることはありませんが、始めから荒天と知っていて出発することはまずないでしょう。この日の室蘭は、風速 29.6m を記録したそうです。いつも参加する時はお天気恵まれるようにと思っていましたが、少々考えを変えました。講習会だからこそできた体験です。今後ますます安全に山を楽しむために、お天気と体調に十分な配慮をし、無理をしないことに努めたいと思います。

最後に、お昼の天井は絶品でした。(帰宅後 家人に自慢) 山を愛する皆さま、コロナウイルスに負けず元気にやまを楽しんでください。ありがとうございました。



イタンキ浜を出発

参加者感想

帯広市 山崎

こんばんは。帯広の山崎です。

今週は冬山講習会パート2ありがとうございました。室蘭岳スキーも楽しく、その後の座学もすぐためになりました。(資料もさることながら、参加者の皆さんの経験から得た知識をいろいろ教えて下さってすぐためになったのです)

2日目はあいにくの強風となってしまいましたが、耐風訓練の実地訓練ができて楽しかったです。一緒にいた方々がみな明るく、明るく物事をとらえる方たちだったので、それに感化されて2日間楽しく過ごさせていただきました。

スタッフの方々、参加者の方々も素敵ですね。帰ってきてからしみじみ「良かったなあ…」と振り返っていました。ありがとうございました。

スポーツライミング関連事業

- 1/26 日本ユース選手権リード競技大会代表選考会 美唄市体育センター
- 2/22-23 JMSCAスポーツライミング部ブロック別研修会 札幌エルプラザ
C級審判認定13名 審判・セッター更新11名
- 3/29 日本ユース選手権ボルダリング競技大会代表選考会 延期

令和元年度 行事・各種事業のうち 新型コロナ関連で中止となったもの

山岳スキー技術養成講習・検定会	令和2年2月29日-3月1日 (指導委員会)
冬山講習会 Part3	令和2年3月14日-15日 (普及委員会)
山岳スキー技術研修会	令和2年3月20日-21日 (指導委員会)

夏山フク講習会 7/11-12 富良野岳・凌雲閣別館

早朝からゆっくりペースで花の百名山・富良野岳をめざす。登山・スポーツクライミング活動ガイドラインに従い講習会を実施した。

◎日程 令和2年7月11日～12日

◎宿泊 十勝岳温泉 凌雲閣別館 上富荘 行動日の前泊（希望者19名）

◎参加者 スタッフ4名 山岳会3名 一般5名 個人会員12名 合計24名

◎報告者 普及委員会 橋本 一郎

◎行程 7月11日(土) 14:00 凌雲閣別館 上富荘 交流会 22:30 就眠 午後・夜 雨
7月12日(日) 曇りのち雨 午後 曇り・晴れ 5:00

5:00 起床・食事⇒6:20 十勝岳温泉登山口発⇒7:20 上ホロ分岐 富良野岳へ向かい右
廻り⇒9:20 縦走路分岐⇒10:10-30 富良野岳山頂(1912m)⇒13:10 安政下降⇒13:45
十勝岳温泉登山口着⇒14:30 解散

◎行動記録 凌雲閣別館「上富荘」に前泊した。本年度初の交流会。参加者の持込みとスタッフの差し入れで、思いがけず豊富な食事と飲物を楽しんだ。

過去、冬季利用の時と違い、水道、トイレは安心して使用出来た。火器は持込み。風呂は本館で22時まで、朝は5時から自由入浴。

12日(日)朝は曇り、やや日が差し好天を期待したが、4班に配置して入山。安政火口から上で雨になった。山麓周囲は濃霧の中。霧状の雨で蒸れて苦しい。ゆっくりペースで他の登山者に幾度も追いつかれ、追い越された。行く先々で花が水に打たれ美しい。残雪はほとんど消失していた。山頂部は花の原、白、黄、赤、紫、花の名を上げるときりが無い。雨模様にもかかわらず多数の登山者で、およそ200人～程か。時折微風のなか小雨、見透しは効かず足元の花がよけいに美しい。

午後は雨が止み日が差した。安政火口～下山路の展望がよくなった。無事下山した。

参加スタッフ 横山 温 橋本一郎 辻野健治 横山泰子



出発前の集合写真



富良野岳山頂

参加者感想

一般参加者 M. I

今回、一般枠で初めて参加させていただきましたが、とても勉強になる一日でした。

私は運動不足解消にハイキングを始め、その延長線で山にも登るようになって3、4年です。道外出身なので、北海道の山登りを安全に楽しむための知識や技術について情報収集できる場が欲しかったのですが、山岳会は厳しくて高度な登山に挑戦するような方の集まりというイメージがあり、私には敷居が高そうと思っていたところ、道岳連の個人会員の方と知り合ったご縁で、この講習会に参加させていただきました。

初めて富良野岳に登りましたが、パーティーのリーダーから、基本的な歩き方や雪渓を渡るとき



稜線上のハクサンイチゲ

の注意点、増水時の沢の様子、植生保護と登山道整備の動向、花や地形の名前や由来等について解説があり、とても勉強になりました。また、今回は時折小雨の混じる天気でしたが、皆さんがそれぞれの雨具や歩き方に工夫されているのを拝見した、装備の使い方や自分に合った歩き方を改めて考える機会にもなりました。出発前や休憩中の体操、ペース配分や休憩&補給のタイミングがちょうど良かったからか、翌日の疲労感も軽く、長い縦走の時の歩き方のイメージにつながりました。

今回の講習会で習ったことや気づいた事を今後の登山に活かしたいと思います。

夏山講習会 Part1 7/24-26 美瑛富士・オプタテシケ山

◎日時 令和2年7月24日(祝)～26日(日) 宿泊場所 吹上温泉保養センター 白銀荘

◎参加者 一般2名 個人会員5名 山岳会5名 スタッフ5名 計17名

◎行動概要 報告者 普及委員長 横山 温

7月24日(祝) 晴れ

14:30 吹上温泉白銀荘集合 開講式、装備点検、パッキング講習、ビデオにてコース確認
夕食、懇親会 20:00 就眠

7月25日(土) 晴れ～曇り 夕方一時小雨

5:00 起床⇒6:30 車を大雪青少年交流の家駐車場に置き、相乗りで登山口へ⇒7:15 登山口発
⇒9:45 天然庭園 ⇒13:00 美瑛富士キャンプ指定地着テント設営⇒14:05 美瑛富士へ出発
⇒15:15 美瑛富士山頂 途中雪渓で水を確保⇒16:20 キャンプ指定地着、後発グループは 17:00 到着
参加者・スタッフ全員テント泊り

7月26日(日) 晴れ

4:00 起床⇒5:00 オプタテシケ山へ出発⇒石垣山～ベベツ岳⇒8:10 オプタテシケ山山頂着⇒8:30
山頂発⇒10:45 キャンプ指定地着、テント撤収、清掃⇒11:45 キャンプ指定地発⇒15:30 登山口着
閉講式・解散

◎行動記録

24日 連休のため交通渋滞に捕まったものの、集合場所の白銀荘に無事到着した。予定通りに明日からの登山に備えて全員で装備確認、荷物の計量を済ませてビデオによりコースの概要を見てもらい、明日からの登山活動に備えて終了する。

白銀荘2階の野外施設で煮込みジンギスカン鍋を囲み、夕食懇親会を実施した。運転疲れもあり20時にはそれぞれの寝床で就寝に入る。

25日 予定通りに出発する。天気は晴れで青少年交流の家駐車場へ。登山口駐車場が狭いためにここから相乗りで駐車場に移動する。美瑛山岳会の内藤さんの案内で駐車場のスペースを確保して頂き助かった。

登山開始は林道歩き、笹原から針葉樹林帯へ。天然庭園の岩を超える度にザックの重さを感じる。ゆっくりペースで13時にキャンプ指定地に到着。テントを張り14時に美瑛富士に出発する。ガス



雲海とオプタテ

がかかり視界も良くないが、14時15分山頂到着。30分遅れて後続隊とすれ違い、雪渓で水を確保してテントに戻る。各テントで夕食を取り、個人会員がデポしてくれたワインをみんなで楽しんだ。



通気のよいテラスでの懇親会

26日夜、北斗七星がこんなに大きく見えるのかと感心するくらい感動した。天気も良く5時出発する。石垣山からの稜線は来て良かった思う位清々しい。下に雲海そしてオプタテシケ山、ここに居る私たちの特権だ。だが、山頂に着いた時は雲の中で残念だった。8時10分山頂到着20分程休憩を取り下山する。山頂からの岩部

分は慎重に下る。登山道の花々を楽しみ10時45分キャンプ指定地に到着。テントを撤収し、11時45分登山口に向かう。道岳連のトイレブース点検で美瑛山岳会の仲間が登ってきた。ご苦労様です。

15時30分登山口駐車場到着。普及委員会恒例の一丁じめで終了とする。今回も天気にも恵まれ、思い出に残る講習会になったと思います。

参加スタッフ 横山 温、細木輝雄、橋本一郎、辻野健治、横山泰子

参加者感想

一般から山岳会に入会した 八木橋 俊輔

この度は、オプタテシケ山登山講習会に参加させていただきまことにありがとうございました。最近、山歩きを始めたばかりの私が、1泊2日の講習会に参加させていただいたのは、オプタテシケの前々週に参加した富良野岳講習会の雰囲気がとても良かったことに加え、山中でのテント泊なんてなかなか自分だけでは体験できるものではなく、この機会を逃がしたくないと思ったからです。ただ、前日になって全ての荷物を詰め、試しにリュックを背負ってみると、とにかく重く、こんなのを背負って何キロも歩くのは難しいので、やっぱりキャンセルした方がよいのではとも思いましたが、どうにもならなくなったらスタッフの方々や他の参加者の方々が助けてくれるに違いないという他力本願な考えでキャンセルは思い止まりました。

登山の前日、白銀荘に集合し、荷物チェック、懇親会が行われ参加者の方々の登山話をお聞きし

気持ちが昂まり、いざ、翌日の早朝登山開始となりました。

スタート直後はリュックが重く、とても辛く感じましたが、引率のスタッフの歩く速さや休憩を取るタイミングが絶妙なのと、植物の説明を下さるので辛い気が紛れ、途中からは楽しい山行となってきました。

そうこうして歩くこと数時間、ようやくキャンプ指定地が見え、テントを張り、その後美瑛富士を登頂しテントに戻り夕食・就寝でした。晩酌を楽しむなどされている参加者の方もいらっしゃいましたが、食事の準備すら初めてで全く余裕がない私は、なんとか食事を終え、その後は泥のように眠りにつき、翌朝、他の方々の準備の物音で目を覚ましました。

前日の就寝時、雨がパラついていましたが翌日はとても晴れ、サブザックで身軽な状態でオプタテシケ山への絶景を堪能させていただきました。その後、キャンプ指定地に戻り、再度重いリュックを担いでの下山ですが、これも引率のスタッフのペース配分のおかげか膝が痛くなることもなく、クタクタになりながらも無事下山することができました。

この講習会を通じて、準備の大切さ、道具の知識、歩き方の基本等沢山得られるものがありました。何よりも登山の楽しさ魅力を感じることができました。スタッフの方々におかれましては、きめ細かいご配慮いただき誠にありがとうございます。

また、他の参加者の方々にもいろいろご質問させていただいたり、ご迷惑をおかけした点多々あるかと思いますが、嫌な顔一つせず快くご対応いただき深く感謝申し上げます。



参加者・スタッフ全員がテント泊



オプタテシケ山山頂

美瑛富士携帯トイレブース点検パトロール 7/26 美瑛富士

昨年の8月から供用開始した固定式的美瑛富士携帯トイレブースは、今年も管理連絡会を構成する道内山岳8団体が点検パトロールを実施している。

北海道山岳連盟は、7月26日(日)に6名の会員(えぞ山道会・えぞ山遙会各1名、クーラカンリ2名、美瑛山岳会2名)でパトロールを行った。ブース、小屋内の清掃、周辺の汚物や使用済み

ティッシュ回収が主な任務であるが、ここ数年は汚物もほとんど見られず、トイレ道の先などの植生が確実に回復してきている。麓の回収ボックスに収納された使用済み携帯トイレの数の多さを見るにつけ、その普及と登山者のマナー向上を実感している。

当日は、道岳連普及委員会主催事業が当野営指定地をベースに美瑛富士、オプタテシケ山で開催されており、少しの時間現地でご一緒した参加者の皆様は、登頂の達成感に満ちた様子で下山していかれた。お疲れ様でした、またお出で下さい。 (報告 自然保護委員会 内藤 美佐雄)

令和2年度 行事・各種事業のうち 新型コロナ関連等で中止となったもの

安全登山シンポジウム	令和2年(道遭対協・道岳連)
安全登山指導者研修会(研修所開き)	令和2年4月4日-5日(指導委員会)
登攀技術研修会	令和2年10月に延期(指導委員会)
沢・登攀研修会	令和2年6月27日-28日(指導委員会)
パワフルレディース登山研修会	令和2年9月12日-13日(指導委員会)
夏山講習会 Part1	令和2年6月6日-7日(普及委員会)
夏季遭難対策研修	令和2年5月9日-10日(遭難対策委員会)
エベレスト街道トレッキング	令和2年11月19日-12月4日(海外委員会)
ジュニア登山教室	令和2年8月5日-6日(ジュニア委員会)
全道交流登山大会登別大会	令和2年8月29日-30日(道岳連・登別山岳会)
北海道アウトドアフェスティバル	令和2年9月21日-22日(実行委員会)

以上 9月1日現在

..... お詫び

「道岳連だより」は、1月、5月、9月のそれぞれ初旬に発行することになっています。今年は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴い、登山活動が自粛を求められるなど、北海道山岳連盟の活動も大幅に制限をされる状況となりました。

特に5月号発行時は、国の「緊急事態宣言」解除前で、道岳連総会も書面開催、行事・事業も中止や延期が相次いで「道岳連だより」掲載の内容が正確さを欠く恐れがあるため、発行を見合わせていました。結果として今回、5月号と9月号を合併したような形になりましたことについて、ご理解下さいますようお願い申し上げます。 編集担当 内藤 美佐雄

道岳連だより 北海道山岳連盟広報 No.89 令和2年9月1日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区月寒西3条10丁目2-48

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄